

## 再々評価個表

事業名	総合流域防災事業	事業主体	愛媛県（西条市）
施設・工区名等	(二) <sup>さかいだにがわ</sup> 界谷川	事業箇所	西条市 <sup>みょうじんぎ</sup> 明神木
事業主旨	<p>二級河川界谷川の現況河川断面は極めて狭小な水路の様相を呈しており、潮位の影響を受ける感潮河川であり、各地区は低平地であることも相まって、浸水常襲地帯となっている。</p> <p>このため、本事業では河積拡大や横断工作物の改築を行い、浸水被害の低減を図り、住民生活及び生産活動の安定を図るものである。</p>		
再評価の実施理由	再評価実施後5年が経過して継続中		

### 1. 流域の概要

<p>界谷川は、愛媛県西条市福武地区内の山間部に源を発して北に向かって流れ、西条市東部の田園地帯の排水を集めて二級河川室川に合流している二級河川である。</p> <p>その流域面積は、約 4.47km<sup>2</sup>、流路延長は 2.8km で、主な支川には上流側より左支川金剛院川、左支川サラサラ川がある。</p> <p>界谷川の流域は、下流部殆どの区間が田園地帯であり、また、西条市の中心部に近いこともあって農地の宅地化が進んでいる。一方、低平地で水はけの悪い地形、河道の流下能力不足が重なり、家屋や農地に浸水被害が発生している。</p>
---

### 2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 3 年	完成予定	平成 30 年
用地着手	平成 5 年	工事着手	平成 10 年
全体事業費	2,600 百万円(うち用地費：595 百万円)		
(1)事業概要	延長 1,288m、築堤 1,546m <sup>3</sup> 、掘削 28,890m <sup>3</sup> 、護岸工 2,576m 道路橋 5 橋、鉄道橋 1 橋、水門 1 基、揚水機 1 基		
(2)事業経緯	平成 3 年 4 月 小規模河川改修事業採択 平成 18 年 3 月 渦井川水系河川整備基本方針策定		

### 3. 事業の必要性及び整備効果等

#### (1) 事業の必要性

事業区間の流域では、低平地で河積が狭く、家屋や農地の浸水被害が度々発生していることから、河積の拡大や横断工作物の改築を行なうことにより浸水被害軽減を図る必要がある。

#### (2) 事業の整備効果

界谷川においては、河川改修を概ね 10 年に 1 回発生すると予想される降雨による洪水を安全に流下させる計画を進めており、これにより一般住宅 123 戸、事業所数 30 事業所、田畑面積 48ha の浸水被害の軽減を図ることができる。

#### (3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

##### ・地域(地元)の協力体制

本地域では、度々浸水被害が発生しており、特に平成 16 年の台風 21 号では甚大な被害が発生したため、平成 16 年 11 月には、地元自治会より浸水被害防止対策の要望書が提出されるなど、地元の協力を得て河川改修に取り組んでいる。

また、西条市も周辺住民及び利水関係者との調整に積極的である。

#### 4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

(うち用地費) H22末投資事業費	(326百万円) [進捗率: 54.8%](事業費換算) 2,071百万円 [進捗率: 79.7%](事業費換算)
<b>(1) 事業の進捗状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用地の取得状況 順次下流から用地買収を行っており、本事業区間の最下流から国道11号までの用地買収は、ほぼ完了している。全体進捗率は54.8%である。</li> <li>・ 事業が長期になっている理由 平成3年より下流側から順次施工を進めてきたが、近年の土木事業予算の縮減により、事業が長期化している。</li> </ul>
<b>(2) これまでの整備効果</b>	<p>平成22年度末には、下流より鉄道橋1橋及び道路橋4橋の横断工作物の改築を含むL=560mの護岸工の整備が完了し、河積の拡大により浸水被害の軽減が図られる。</p>
<b>(3) 今後の事業進捗の見込み</b>	<p>地元の協力体制も整っていることから、今後とも順調な事業進捗が見込まれ、平成30年度事業完了に向けて、事業の進捗を図る。</p>

#### 5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

<b>(1) 費用便益比</b>	
C : 総費用 = 3,656百万円	
・ 建設費           3,452百万円	
・ 維持管理費     204百万円	
B : 総便益 = 5,321百万円	
・ 整備期間中の便益	2,137百万
・ 事業完成時から50年間の便益	3,139百万
・ 残存価値	45百万
B / C = 5,321 / 3,656 = 1.46	

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

本河川の護岸形式について、環境保全型ブロック、カゴマット、ジオテキスタイルと経済比較し、最も安価であり周辺の景観に配慮したブロックマットを採用しコスト縮減を図った。

## 7. その他

工事の施工に当たっては、自然環境及び河川利用の実態の把握に努め、治水面及び利水面との調和を図る。

## 8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。